

みずほCustomer Desk Report 2018/04/16号(As of 2018/04/13)

国際為替部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値 GBP/USD	107.41 AUD/USD
TKY 9:00AM	107.26	1.2329	132.27	1.4238	0.7759
SYD-NY High	107.78	1.2346	132.90	1.4296	0.7810
SYD-NY Low	107.21	1.2308	132.27	1.4221	0.7753
NY 5:00 PM	107.34	1.2330	132.38	1.4236	0.7768
NY DOW	24,360.14	▲122.91	日本2年債	-0.1600	0.00bp
NASDAQ	7,106.65	▲33.60	日本10年債	0.0300	0.00bp
S&P	2,656.30	▲7.69	米国2年債	2.3587	0.45bp
日経平均	21,778.74	118.46	米国5年債	2.6701	▲0.82bp
TOPIX	1,729.36	10.84	米国10年債	2.8239	▲1.83bp
ソコ日経先物	21,795	▲45.00	独10年債	0.5095	▲0.40bp
ロンドンFT	7,264.56	6.22	英10年債	1.4345	▲2.10bp
DAX	12,442.40	27.39	豪10年債	2.7155	4.05bp
ハンセン指数	30,808.38	▲22.90	USDJPY 1M Vol	6.98	▲0.08%
上海総合	3,159.05	▲21.11	USDJPY 3M Vol	7.48	▲0.08%
NY金	1,347.90	6.00	USDJPY 6M Vol	7.88	▲0.04%
WTI	67.39	0.32	USDJPY 1M 25RR	-0.70	Yen Call Over
CRB指数	199.70	0.39	EURJPY 3M Vol	7.63	▲0.11%
ドルインデックス	89.80	0.05	EURJPY 6M Vol	8.12	▲0.14%

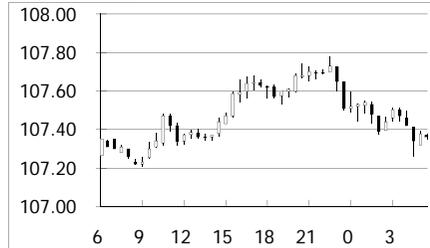
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
4月13日	12:09	中 貿易収支	3月 -\$4.98b	\$27.50b
	12:09	中 輸出(前年比)	3月 -2.7%	11.8%
	12:09	中 輸入(前年比)	3月 14.4%	12.0%
	15:00	独 CPI(前月比/前年比)・確報	3月 0.4%/1.6%	0.4%/1.6%
	21:00	米 ローゼンゲン・ボストン連銀総裁 講演「米経済見通しは良好」		
	22:00	米 ブラド・セントルイス連銀総裁 講演「最近のインフレ指標、驚きに値しない」		
	23:00	米 ミシガン大学消費者マインド・速報	4月 97.8	100.3

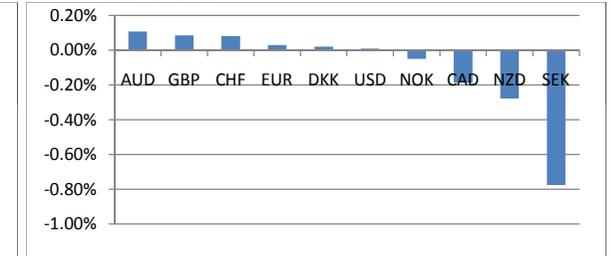
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
4月16日	21:30	米 小売売上高速報(前月比)	3月 0.4%	-0.1%
	21:30	米 小売売上高(除自動車/前月比)	3月 0.2%	0.2%
	21:30	米 ニューヨーク連銀製造業景気指数	4月 18.6	22.5
4月17日	02:15	米 ポスティック・アトランタ連銀総裁 講演	-	-

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	107.20-108.00	1.2300-1.2350	132.00-132.80

【マーケット・インプレッション】

先週金曜日海外時間のドル円は堅調に推移。シリア情勢を巡る緊張緩和、米株上昇などを背景に約2ヶ月ぶり高値となる107.78まで上昇した。本日のドル円は小確りとした展開を予想。週末に米財務省から為替報告書が発表されたもののドル円相場への影響は限定的。また、米・英・仏によるシリアへのミサイル発射もマティス国防長官から「1度限りの攻撃」との発言が伝わり、シリア情勢を巡るイベントは一旦消化した格好で週明けの市場はリスクオフ相場とはなっていない。シリア・北朝鮮情勢を中心に地政学リスクへの警戒感拭えないものの、明日以降の日米首脳会談を控えて様子見ムードが広がる中、狭いレンジでの展開を予想する。

東京	東京時間107.26レベルで取引を開始したドル円は前日の海外市場で地政学リスクが後退したことでリスクオフの流れとなり、ドル円は底堅く推移。日銀による超長期・中期国債買入の通告で金額が据え置きだったことから安心感からドル円は107.48まで上昇。しかし先週からレバスタスタインとして意識されていた107円台半ばを上抜けることができず、寄り付き後に上昇していた日経平均株価が反落する中、ドル円は107.32まで反落。東京時間終盤には107.50の大口のオーダーをブレイクすると107.59まで一気に上昇し、同レベルで海外に渡った。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン市場ドル円は約7週間ぶりの高値を付けた。107.59レベルでオープン。シリア情勢緊張の和らぎや格付け会社大手のS&Pが日本の経済成長見通しの改善を理由に日本国債の格付け見直しを安定的からボシティアに引き上げたこと等にリスクオンモードとなった中、買収に絡むポンド円の買い発生が加わったことでドル円は107.74まで上昇した。高値圏のままニューヨークへ渡った。(ロンドン17:00)
ニューヨーク	海外市場のドル円はシリア情勢を巡る緊張緩和やS&Pが日本国債格付け見直しを上げたことなどを背景に、ストップを巻き込みながら107.74まで上昇し、107.70レベルでNYオープン。決算発表を好感し米株先物が堅調に推移する動きを横目に107.74を上抜け、高値107.78まで上昇。米4月ミシガン大消費者信頼感指数がトランプ政権が進める貿易政策の影響が懸念されたことで冴えない結果となったことや国連安全保障理事会緊急会合において米国のペリー国連大使が「トランプ米大統領は(シリアへの軍事行動について)まだ決断していない」と発言。これらを背景に米株がマイクス圏へと下落幅を拡大したことから、ドル円も107.38まで下落。米株の下げ止りを受け、一旦は107.51を回復したが、米国のミサイル駆逐艦「ウイストン・チャールズ」が地中海を含む米海軍の活動海域に配備されたとの報道も流れ、シリアを巡る緊張感が継続する中、引けにかけて再び下げ幅を拡大する米株を横目に107.26まで下落し、107.34レベルでクローズ。引け後に公表された米財務省が為替報告書では、為替操作国の認定はなく、前回報告書での対象国(日本、中国、スイス、韓国、ドイツ)に加え、インドも監視対象に追加された。一方、ユーロは1.2313でNYオープン後、米金利低下でドル売りが強まったことから1.2345まで上昇。その後は1.2335近辺で方向感なく推移し、1.2330レベルでクローズ。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

担当:坂本・田家